

地方公共団体名： 種子島一市二町（西之表市・中種子町・南種子町）

○提案内容：島の資源を高度利用したブランド化の推進

(1) 実現したい島のビジョン・方向性	
<p>島内で得られる資源を高度に利用する島の実現のため、科学的な分析を実施し、ブランド化の推進を図る。 例えば、最高品質・高品質の農産物を特定するための分析技術の導入と、それを保証するシステムの開発や、製糖工場などの離島ならではの資源を高度に利用する生産プロセスや販路を実現するとともに、持続可能な産業として、各産業のスマート化を図り、人材の確保を図る。</p>	
(2) 新技術の導入により解決したい離島の課題	課題の分類
<p>① 種子島では安納いもをはじめとする農産物や特産品があるが、生産者によって大きさや糖度などの品質に差ができています。特産品を地域ブランド化して生産者の収益を向上させたいが、そのためには、品質を保証するための分析技術がなく、ガイドラインなどの策定ができていない。</p> <p>② 大学や企業などが本島の資源を用いる技術の開発をするために訪れているが、本島の中には科学的な分析を行うことができる産業や施設が存在せず、具体的な導入を進めるために必要となる作業を島外へ持ち出して行わねばならないという意見を多くもらっている。このような研究開発阻害となってしまっているインフラの不足が、継続的な事業の実現を困難にしている。</p> <p>③ 光回線が敷設されているものの、Wi-Fiが未整備である場所や携帯電話のキャリアによっては電波が届きにくい場所が存在する。栽培データの蓄積や新たな技術の導入への弊害にもなっている。</p>	<p>下記のうち、該当するものを○で囲んでください。</p> <p>交通・モビリティ ティ エネルギー 物流 防災 観光 教育 健康・医療 環境 産業 担い手確保・人材育成 その他</p>

(3) 新技術の導入による課題解決の方向性 (イメージでも可)

課題①及び③に対して、特産品のブランド化のためには、品質保証を行うために必要となる分析技術が不可欠である。同時に、選果場における分析だけでなく、圃場における計測や情報の集約・発信など、農業用ICTを駆使した新しい地域作物の栽培・評価・販売のためのインフラが必要である。これらを導入し、島内の生産者と島外の消費者をICTを通じてつなげていき、特産品の販売だけでなく、島外からの観光や就農移入のきっかけづくりへとつなげていきたい。

課題②に対して、島内の産業や島外から来る大学等研究機関が共同で使えるような分析機器を設置した施設を基盤として整備したい。廃校を利用するなど、地域の歴史・文化とも親和させ、かつ、地元の中学・高校なども活用できるような設備とすることで、人材育成にもつなげられるような拠点としたい。

(4) その他

種子島一市二町は、東京大学未来ビジョン研究センターをはじめとする大学連合と包括連携協定を2020年4月に締約する予定となっており、今後、加速的にスマートアイランドの実現を目指していく準備が整っている。ただ、大学の研究活動だけでは地元への定着が十分ではない。地方自治体として、地域内外の産業と連携して、持続的な地域システムを築くための基盤を整備していきたい。

※参考資料がある場合は適宜添付をお願いします。

○部局名・担当者・連絡先 (電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先 (電話)	連絡先 (メール)
西之表市経済観光課 中種子町企画課 南種子町企画課	横山 義之 永濱 次則 石堂 裕司	0997-22-1111 0997-27-1111 0997-26-1111	shoukou@city.nishinoomote.lg.jp naka-kikaku@town.nakatane.lg.jp kaihatsu1@town.minamitane.lg.jp